

# ▶ 法律基本 7 科目編

## 1 キックオフ司法試験予備試験

### 標準学習期間

7 科目全体で 1 ～ 2 か月程度（受講開始が総合講義民法配信後の場合は 1 ～ 2 週間程度）

### 獲得目標

キックオフ司法試験予備試験は、法律基本 7 科目の全体像と重要項目をスピード攻略するエントリー講座です。そのため、キックオフ司法試験予備試験での獲得目標は「この科目はこんなことを学習するらしいということ」、「条文が大事であること」、「法律の学習は難しいものであること」、「前の話を理解するには後の話を理解する必要があること」、「繰り返しによる慣れが必要であること」、「どの科目・分野でも似たような説明がされていること」といった、法律学習の仕方・コツのイメージを持つことになります。

この段階では講師が講義で触れた条文を六法を開いて確認し、疑問に思った点を少し考えながら先に進めていきましょう。キックオフのテキストを後に見返すことはないので、この段階で詳細なメモを取ることは不要です。法律に慣れる範囲で手と頭を動かしていきましょう。

## 2 総合講義 300

### 標準学習期間

1 科目あたり 3 週間～ 1 か月

### 獲得目標

総合講義 300 を進めるうえで最も大事なポイントは、「将来演習段階に入った時の辞書作りのイメージ」で先に進める必要があり、かつ、それで足りるということです。総合講義 300 の段階で法律の知識をすべて理解するなんて言うことは限りなく不可能に近いです。ですから、わからないことが出てくる度に立ち止まることは効率が非常に悪いと言えます。講義を聞いても分からないところは時間を決めたくて立ち止まって考え、それでもわからない部分は付箋を貼る等して先に進めましょう。他方、ただ聞き流すだけでは頭に入ってこず、時間の無駄遣いになってしまいます。勉強の基本は「考えて脳に負荷をかける」ことですから、講義中も手や頭を動かして講師の話している内容を理解するよう努めましょう。それでもわからないことはたくさんあると思いますが、それでよいのです。講師が大切だと述べている部分は意味が解ら

なくてもメモを取っておきましょう。それがのちの財産となるはずです。

法律は「事件解決の道具」であるため、法律を理解するためには、個別具体的な事案において、法律がどのように活用され、当該事案がどのように処理されるのかを知ることが不可欠です。試験の観点で言い換えれば、問題演習の経験を積むことが必要です。しかし、一切インプットをしていない状態でいきなり問題演習をしても「そもそも問題文や解説・模範答案に書いてあることの意味が分からない」という状態になってしまうでしょう。それでは効率よく問題演習に取り組めません。

そこで、インプットをすることになります。つまり、この段階での獲得目標は「問題文や解説・模範答案が読めるようになること」にあります。

上記の獲得目標達成のために、どのような点を意識して総合講義を視聴するべきかについてですが、制度、概念については「簡単な言葉に言い換えるとどうなるか」、論点については「誰が困っているから問題となっていて、それぞれの見解が誰を保護しようとしているのか（あるいは調和をはかろうとしているのか）」、「例えばどのような事例でそれが問題となりそうなのか」を意識するとよいでしょう。

### ③ 論文答案の「書き方」

#### 標準学習期間

1 科目あたり 1 週間

#### 獲得目標

論文答案の「書き方」の獲得目標は、事例問題がどのような問題文になっていて、どのような問いが出され、それに対してどのような解答をすることが求められているのかといった点を大まかに把握すること、つまり「法律の試験問題や答案の具体的イメージが湧くようになること」です。

この講座は、文字通り「書き方」を学ぶ講座ですから、この時点で問題を「解ける」ようになる必要は全くありません。また、論点を網羅的に扱っているわけでもない（論点の網羅性は重要問題習得講座でカバーしています。）、何周も回す必要もありません。法律答案の雰囲気というものを大まかにつかんで頂き、重要問題習得講座に進みましょう。

なお、書き方講座テキストの中に書かれている答案の流れや考え方は重要問題習得講座に移行したのちも使う大事なエッセンスになりますので、慣れるまでは重要問題習得講座を進める際も手元において適宜見直すとよいでしょう。

## 4 重要問題習得講座

重要問題習得講座（以下「重問」といいます）は予備試験本番までに何回も繰り返すことを想定した講座になりますので、以下、各段階に応じた標準学習期間および獲得目標を記載しています。

### 4-1 重問 1 周目

#### 標準学習期間

1 科目あたり 3 週間

#### 獲得目標

#### ① 具体的な事例を通じて論点の問題となる具体的な場면을把握することを意識する

重問は問題集の形式であるためアウトプット教材と思われがちです。しかし、学習初期段階（1 周目～2 周目くらいまで）はインプット教材という意識で取り組んでいただくことをおすすめしています。具体的には、最大 15 分ほどで問題文を読んで考えたのち（全く分からなかったらすぐに）、解説、解答例、講義を確認し、講義メモを取るようにしましょう。この段階で細かい部分を把握・理解する必要はないので、条文の要件効果を中心とした大まかな骨組みを押さえることを意識してください。ざっくりとしたフローチャートをイメージするといいかかもしれません。

総合講義では、抽象的に「こういう論点がある」という形で論点を学ぶことが多いですが、その論点が具体的にどのような場面で登場するのかを理解していないと、問題文から論点を抽出することができません。

そこで、重問 1 周目では、総合講義で学んだ論点の具体的な登場場면을意識して学習を進めましょう。

#### ② 重問に出てくる論点の問題の所在・当該問題を解決するための規範・当該規範を採用する理由を確認する（論証集 AB に限る）

繰り返しになりますが、重問 1 周目はインプットです。そして、この時期に頭に入れるべきは各論点の「問題の所在」（どのような場面で問題となるか・どの条文のどの文言との関係で問題となるか等）「問題を解決するための規範」「当該規範を採用する理由」です。

重問を解きながら出てきた論点について、総合講義に戻りながら上記の点を頭に入れていきましょう。時には参考図書に戻ることも推奨します。もちろん適宜条文を参照し、当該条文は

どのような構造になっているのか（要件・効果の分解）、論点の出発点となる文言はどこかも確認しましょう。

ここでも完璧主義は禁物です。標準学習期間で終えようとする と 1 日 4 問くらいはやることになると思います。そのため、1 問にかけられる時間はそこまで多くありません（30 分～長くても 1 時間程度でしょう）。

そのため、上記の点を学習するために総合講義テキストを読んだり参考図書を読んだりする作業も、1 問にかけられる時間の範囲で行っていただければ十分です。その範囲で分からなかった部分は一旦飛ばして先に進んで頂いて大丈夫です。

## 4-2 重問 2 周目

### 標準期間

1 科目あたり 2 週間

### 獲得目標

#### ① 参考答案を読みながら答案の構造を把握する

2 周目では、1 周目で意識した「問題の所在」「規範」「理由」が解答例の中でどのように登場しているのか（法律の答案というものがどのような構造になっているのか）を意識していただきたいです。

方法としては、各問題に取り組む際、解答例のうち「問題の所在」は黄色マーカー、「規範」は青マーカー、「理由」はピンクマーカーのような形で、解答例を分解して答案の構造を把握してみるとよいでしょう。

もちろん、答案には「問題の所在」「規範」「理由」以外の構成要素もありますが、まずは大切な部分についての意識を高めようという趣旨です。

この作業ができると、論文答案がどのような要素で構成されているかが分かり、その結果何を頭に入れておけば答案が書けるのかが明確になります。

#### ② 「問題の所在」「規範」「理由」を組み合わせて自分の言葉で書けるようにする（論証集を参考にしながら）

2 周目でも「問題の所在」「規範」「理由」を理解して記憶する作業は継続することになるのですが、2 周目ではそれに加えて「文章化する」ことにも挑戦してみましょう。

論文試験はいくら頭の中に知識があっても、文章にすることができなければ意味がありません。そのため、「問題の所在」→「規範」→「理由」を自分の文章でつなげるように訓練しましょう。